

7. 体温に関する研究報告

(昭和54年度)

南谷幹夫 (都立駒込病院)

入江嘉子 (オデリア乳児院)

わが国の体温計測は、一般には腋窩で計測され、医療機関における入院乳児は直腸温、幼児以上では腋窩温が測定されることが多い。

そして直腸温と腋窩温との差は0.5℃前後とされ、また直腸温のほうが体内温を示すとされる。

1. 目的：健康児の直腸温と腋窩温を計測すると共に、両計測値の差を明らかにする。あわせて、発熱、下痢、上気道症状を伴うときの両計測値をも観察した。
2. 対象：1才～1才6カ月の乳児院収容児18名である。
3. 体温測定条件：毎日1検とし、午後3時より3時30分の間に行い、計測時間は直腸温1分半、腋窩温5分とした。
4. 観察時期と期間：昭和54年10月23日より同年11月22日に至る1カ月間で、日曜祭日を除外した。
5. 結果：次の如き結果を得た。
 - 1) 健康児体温：258回計測し、直腸温は37.0℃より38.4℃の間に分布し、37.4℃以下15%、37.5～38.0℃73%、38.1℃以上12%で、90%は37.3～38.1℃であり、腋窩温では35.8℃より37.6℃の間に分布し、36.4℃以下35%、36.5～37.0℃50%、37.1℃以上15%で、62%は36.5～37.4℃の間に分布していた(表1)。
 - 2) 発熱時体温：23回計測し、直腸温は38.5℃より40.5℃の間に分布し、39℃以下57%、39.1～40.0℃26%、40.1℃以上17%であるのに対し、腋窩温では36.7℃より39.7℃の間に分布し、37.4℃以下39%、37.5～38℃26%、38.1～39℃9%、39.1℃以上26%であった。両計測値を比較すると、直腸温より腋窩温のほうが分散が大きい傾向がみられた(表1)。
 - 3) 発熱+下痢時体温：8回計測し、直腸温は38.5℃より40.0℃の間に分布し、腋窩温では37.4℃より39.4℃の間に分布していた(表1)。
 - 4) 下痢時体温：56回計測し、直腸温は37.0℃より38.4℃の間に分布し、37.4℃以下13%、37.5～38.0℃63%、38.1℃以上24%であり、37.3～38.1℃のものは

77%であった。腋窩温では36.0℃より38.2℃の間に分布し、36.4℃以下25%、36.5～37.0℃50%、37.1℃以上25%で、36.5～37.4℃のものは64%であった(表1)。

5) 上気道症状時体温: 73回計測し、直腸温は37.0℃より38.4℃の間に分布し、37.4℃以下22%、37.5～38.0℃58%、38.1℃以上20%であり、37.3～38.1℃のものは78%であった。腋窩温では35.9℃より37.8℃の間に分布し、36.4℃以下29%、36.5～37.0℃51%、37.1℃以上20%で、36.5～37.4℃のものは67%であった(表1)。

6) 直腸温と腋窩温の差: 直腸温と腋窩温の差(計測差)の分布を表2に示した。健康児における計測差は0.2℃より2.0℃の間に分布し、0.5℃以下8%、0.6～1.0℃38%、1.1～1.5℃39%、1.6～2.0℃15%で、0.6～1.5のものが77%を占め、平均計測差は1.09℃であった。

発熱時、熱+下痢時、下痢時および上気道炎症状時の計測差をも同時に示したが、いずれも同様の傾向がみられた。

7) 直腸温と腋窩温の差と室温: 体温測定時には同時に室温(℃)を測定し、直腸温、腋窩温、計測差を求める際の参考としたが、計測差と室温の間には特に関係はみられなかった(表3)。

表1 直腸温, 腋窩温の分布

	健康		発熱		熱+下痢		下痢		咳	
	直	腋	直	腋	直	腋	直	腋	直	腋
35.8		3								
9		2								1
36.0		9						1		1
1		13						2		2
2		17						2		5
3		29						4		4
4		19						5		8
5		17						1		9
6		25						9		6
7		28		2				4		6
8		24		1				5		6
9		11						3		6
37.0	2	23		2			1	6	2	4
1	3	11		1			1	2	1	4
2	4	10		1			1	1	2	2
3	12	7		2			2	2	5	2
4	17	3				2	2	3	6	4
5	34	3		2		1	5	3	8	2
6	26	4					5		6	
7	40					1	9		12	
8	45			1			6	2	5	1
9	26			2			3		5	
38.0	18			1			7		6	
1	13					1	4		4	
2	8						2	1	4	
3	6						7		2	
4	4					1	1		5	
5			7		4					
6			2							
7			1	2		1				
8										
9			2							
39.0			1		1					
1			1	2						
2										
3			2	2	1					
4					1	1				
5										
6			1							
7			1	2						
8										
9										
40.0			1		1					
1			1							
2			1							
3			1							
4										
5			1							
計	258		23		8		56		73	

表2 直腸温-腋窩温の差の分布

差	健康	発熱	熱+下痢	下痢	咳
0.1	%			1	
.2	1	0.4			1
.3	5	1.9	2	2	1
.4	5	1.9			2
.5	8	3.1	3		7
.6	13	5.0	1	1	5
.7	23	8.9	1		4
.8	22	8.6			5
.9	16	6.2	1	1	7
1.0	24	9.3	1	1	4
.1	21	8.2	2	2	7
.2	27	10.5	2		3
.3	17	6.6		1	6
.4	23	8.9	2		3
.5	13	5.0	1		2
.6	18	7.0	2		2
.7	7	2.7	1		2
.8	7	2.7	1	1	2
.9	5	1.9	1		1
2.0	2	0.8	1		
.1					1
.2			1		
平均	1.09				

表3 直腸温-腋窩温の差と室温(°C)

室温	20	21	22	23	24	25
差						
0.1						
2	.	.	.			
3	
4	
5
6	
7
8
9
1.0
1
2	
3
4	
5	
6
7	
8
9	
2.0		.			..	
1		.				
2					.	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



わが国の体温計測は、一般には腋窩で計測され、医療機関における入院乳児は直腸温、幼児以上では腋窩温が測定されることが多い。そして直腸温と腋窩温との差は 0.5 前後とされ、また直腸温のほうが体内温を示すとされる。